

新報

発行所 福岡県松本市小石
若松高等学校
新聞部
正 尾 守 正
西 大 沢
編 大 沢
集 大 沢
印 西日本新聞社

説 論

わが新報新聞の使命

以来既に二年有余の歳月を経た。ここに第二号の発行を前にして、この間われわれは本紙の育成に最大の努力を傾け、校風の刷新にも幾分寄与することがあつた。ここに我々は創立二周年を迎えて過去を振り返り、将来の展望を再認識したいと思ふ。

使命

高校新聞の使命

高校新聞はその名の通り、学園の公器である。従つて、その使命は、学園の発展と、その精神の保持と、その理想の追求とにある。従つて、その使命は、学園の公器としての使命である。従つて、その使命は、学園の発展と、その精神の保持と、その理想の追求とにある。

県図書館に選入

晴れの四校に選ばれる

うち三校は北九州

本校が選入されたのは、県立図書館に選入された。これは、本校の発展と、その精神の保持と、その理想の追求とにある。

元森先生逝かる

愛の輸血もむなく



元森先生 写真

一月十六日より心臓病のため市内病院入院中であつた元森先生は、九月二十九日午後二時三十分、享年四十二歳に逝された。

新校歌制定さる

作詩 火野葦平
作曲 古関裕而

若松高等学校校歌

南北統合後、新たに新校歌を制定する運びとなり、先づ山田輝彦先生作詩、大西直実先生作曲のもと、本校庶務課の発案で行われ好評のうちに、新校歌の制定が完了した。

時事解説

自衛と安全保障

米の方針は、国務省が案の対日講和七項原則で示されたが、それは、自衛と安全保障を重視するものである。

待望の柔道部設置

来年には剣道部も

終戦後、日本武道を代表する剣道と共に廃止された柔道は、その後一般の社会系道が徐々に復活され、学校では昔の懐かしい声も聞かれるようになった。

民主的な校則を

本校の方針は民主的な原則に基づいて、学校を支配する生徒会が中心となって運営される。従つて、校則も民主的に制定されるべきである。

在校生諸君へ

我々が懐き本校を卒業するに当り、種々な御声援をいただき、特に今回の卒業会には三年生全員大いに感謝していただきます。

五月初旬に

新三年の修学旅行
新学年も間近にせまり、新三年生の修学旅行の話題が上つてくる。

進

いよいよ三年生の諸君もこの学期から、お別れである。この学期は、毎年の伝統的な行事を、起すのがこの学期である。

